



入院中の子どもたちに 野球の楽しさを

～ウルトラ・ユニバーサル野球大会～



難病や不慮の事故などで、長期入院を余儀なくされる子どもたちがいます。彼ら彼女たちは外出が制限され、スポーツを楽しむ機会も失われてしまいます。しかし、パソコンを操作することで遠くにあるバットを振ってボールが打てる「ウルトラ・ユニバーサル野球」によって、その常識を覆すことが可能になりました。

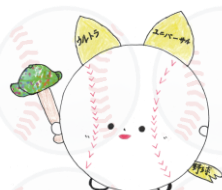
2025年3月には、神奈川県立こども医療センターに入院中の子どもたちが病室から遠隔操作で野球を行うテストマッチが行われ、技術的に実施可能であることが確認されています。また、試合前に体調がすぐれなかった子どもが、試合後に元気を取り戻したという効果も報告されています。

難病や重度障害であっても選手として活躍できる「ウルトラ・ユニバーサル野球大会」のスペシャルゲームを、国立成育医療研究センターに入院中の子どもたちを対象に開催します。

子どもたちは各病棟から、スイッチを押すだけの簡単な方法でパソコンを操作し、バッティングに必要な信号をリモートで送信します。その信号が講堂に設置された巨大な野球盤に届くと、バットがスイングされてボールが打てる仕組みになっています。

小児がんや難病で長期入院を余儀なくされている子どもたちが、これまで想像すらできなかった野球の選手として活躍するという夢を実現することで、子どもらしい楽しみが制限されている闘病生活に潤いを与え、退院後の在宅生活でも病気に立ち向かう活力が増進されることが期待されます。

- <日 時> 2025年9月21日（日）14時～16時
- <会 場> 国立成育医療研究センター講堂および参加する4病棟
- <試 合> 4病棟が参加して2試合行う
- <参加者> 約50名を予定
- <参加費> 無料
- <主 催> 一般社団法人ソーシャルアクションジャパン
- <問合せ> info@soc-act.jp



いっはおいこがだん
ほうじんソーシャル
アクションジャパン



※難病や重度障害の子どもや関係者が
考案した大会マスコットキャラクター

助成：公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団